

今週の T2 経済レポート



2019年6月21日号

■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は本来なら急反発が期待できる週でしたが、急落すべき先週に急落が起きなかったことで急反発の可能性もなくなった様子見の週となりそうです。今週(6/17~6/21)の相場を占う『RU-RD 指標』は6月7日週が+6.3%と再び、プラス圏に浮上していることから本来なら急反発の可能性がありますが、先週「今週、急落が無ければ来週の急反発も無くなる可能性があります。」と指摘したように、6月14日メジャーSQ週に買い支えの動きが起きて急落が起きなかったことから急反発の可能性も低く様子見の動きとなりそうです。ただ、来週(6/24~6/28)の相場を占う6月14日週が+10.3%と2週連続プラス圏をキープしたことで堅調な相場が今来週は期待できそうです。そうは言っても、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が5月10日週-35.7%→5月17日週-61.4%→5月24日週-50.0%→5月31日週-48.6%→6月7日週-52.9%→6月14日週-48.6%と5週連続で下限ゾーンに陥ったままです。5週連続下限ゾーンは2016年2月8日週~4月11日週の10週連続下限ゾーン以来。従って、「チャイナ・ショック」時の底値形成時期と現在は同じ衝撃度ということであり、同指標が下落ゾーンを脱し、プラス転換するまでは相場の本格上昇は遠のいたかたちです。

今週は、経済指標では、国内は、19日に5月貿易統計、5月訪日外客数、21日に5月消費者物価指数、海外では、20日に米1-3月期経常収支、米・6月フィラデルフィア連銀製造業景気指数などが予定されています。6月20日発表の米6月フィラデルフィア連銀製造業景気指数は10.5と、5月実績の16.6を下回る見通しで、製造業関連の指標悪化は利下げ観測を後押しすることからドル売り材料ですが、相場への影響は限定的となりそうです。一方、イベント・トピックスとしては、国内では、19日に日銀金融政策決定会合(20日まで)、20日に黒田日銀総裁会見、海外では、18日にFOMC(19日まで)、19日にパウエルFRB議長会見で経済見通しを発表する予定。6月19日の連邦公開市場委員会(FOMC)では政策金利の据え置きは濃厚ですが、7月利下げ観測が広がれば相場を下支えしそうです。」とコメントしました。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



5月31日週	6月7日週	6月14日週	6月21日週
¥20,601.19	¥20,884.71	¥21,116.89	¥21,258.64
-28.4%	21.3%	-2.60%	6.3%

先週の日経平均は、高値 21497 円(6 月 21 日)・安値 20924 円(6 月 18 日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁が追加の金融緩和の可能性に言及したことに加え、トランプ大統領と習国家主席の電話会談で 28 日から開催予定の主要 20 カ国・地域(G20)首脳会議で米中首脳会談が開催される運びとなったことを好感、更に、注目された FOMC では政策金利が据え置かれるなか、当局者の約半数が利下げを支持、米国での利下げ期待が高まったことから上値目標値を達成、週間ベースで+142 円高と 3 週連続反発して終了しています(先週予告していた上値メド 21272 円~21697 円(+2%かい離)//下値メド 20601 円~20188 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えて、6 月 10 日に 21000 円大台替えて仕切り直しが入りました。21500 円大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、20500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えては、3 月 30 日までに 22000 円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。23000 円大台替えて仕切り直し、逆に、20000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、5 月に 21000 円大台割れで逆に下落スタートとなりました。20000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に 22000 円大台替えて仕切り直しが入ります。これで短期↑、中期→、長期↓となり、乱高下の起きやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 26907 ドル(6 月 21 日)・安値 26049 ドル(6 月 17 日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、18-19 日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)会合で市場の予想通り政策金利の据え置きが決定されましたが、FOMC のスタッフ予測でも 8 人のメンバーが年内 1、2 回の利下げを予想、パウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長が会見で「多くのメンバーが利下げの論拠が強まったと考えている」と述べたことから 7 月を含めて年内複数回の下げ観測が強まり上値目標値を達成、週間ベースでは+630ドル高と 3 週連続反発、かつ昨年 10 月につけた 26951.81 ドルの最高値目前で終了しています(先週予告していた上値メド 26772 ドル~27307 ドル(+2%かい離)//下値メド 25577 ドル~25065 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えて、6 月 7 日に 26000 ドル大台替えて仕切り直しが入り、18 日に 26500 ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面入りに 11 日間、従って、29 日までに 27000 ドル大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、26000 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、6 月 7 日に 26000 ドル大台替えて仕切り直しが入りました。27000 ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、25000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、6 月に 26000 ドル大台替えて仕切り直しが入りました。27000 ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、25000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期↑、長期↑となり、強含みのかたちに変化しました。

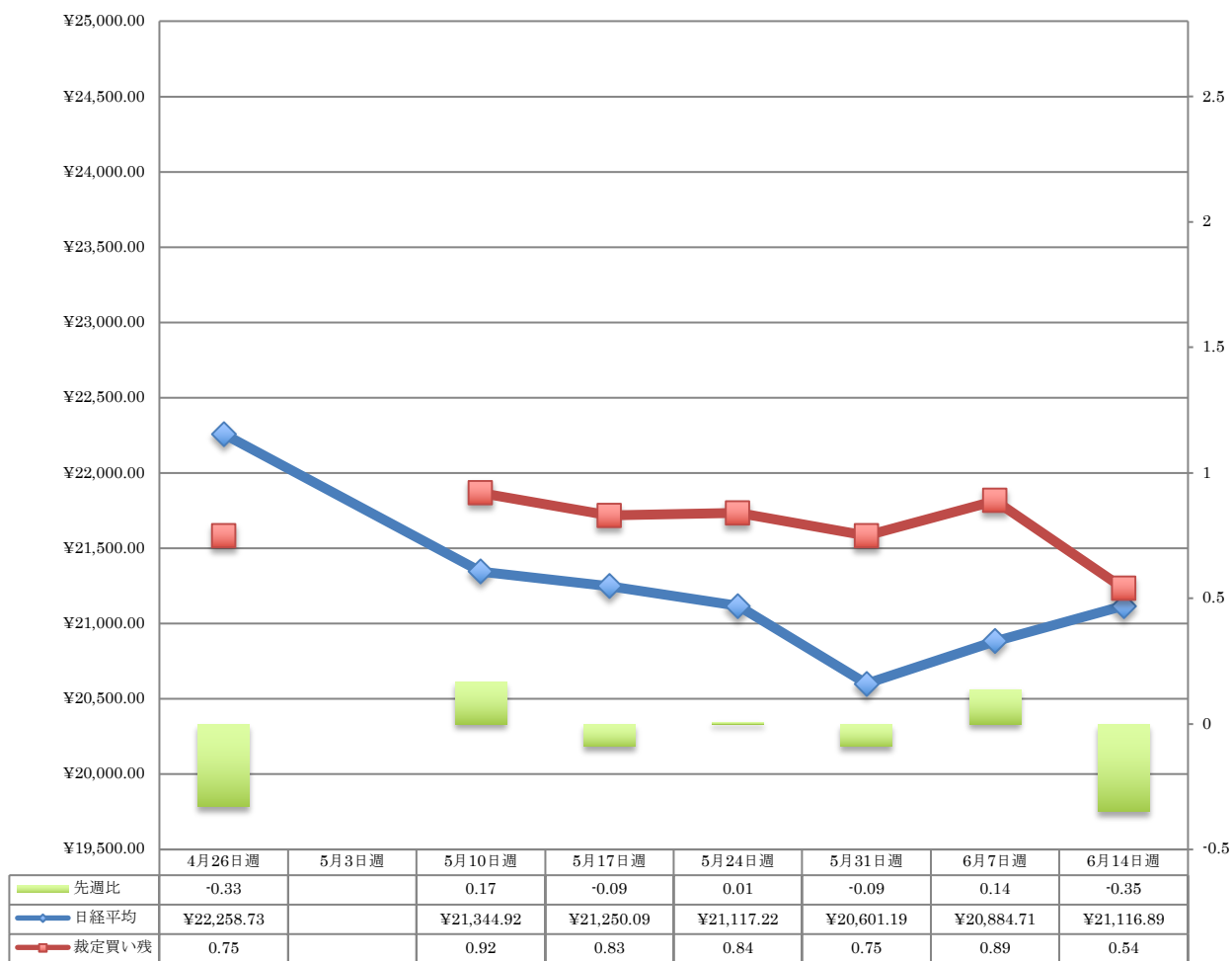
一方、為替は、ドル・円が 108.72 円~107.04 円(先週予告していた上値メド 108.61 円~109.69 円(+1%かい離)//下値メド 107.41 円~106.33 円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成

しましたが実質は前の週と異なり、円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1377～1.1179(先週予告していた上値メド1.1389～1.1502(+1%かい離)//下値メド1.1238～1.1125(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成して4週間振りにドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、122.15円～120.91円(先週予告していた上値メド123.27円～124.50円(+1%かい離)//下値メド121.31円～120.09円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成して5週間振りに円高・ユーロ安。前の週のユーロ>ドル>円から円>ドル>ユーロに変化しています。ドラギ欧州中央銀行(ECB)総裁の「インフレ目標達成が脅かされれば、追加的な刺激が必要になる」との発言でユーロ安に変化しましたが、米国で7月利下げの可能性が高まったことでユーロ安は限定的となったかたちです。

<裁定買い残>

前の週と異なり、再び減少しここ5週間毎週増減を繰り返し、底値水準で行ったり来たりしてる状況が継続しています。昨年12月末の5000億円台からみると約3倍近い1.4兆円台の水準まで回復した後、5000億円台まで再び減少して2番底のような動きとなっています。過去の推移を振り返ると、昨年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、昨年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000円億円台を回復して昨年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出しました。その後、昨年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円の急減で昨年2月5日週以来。やはり昨年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

裁定買い残と先週比



	5月24日週	5月31日週	6月7日週	6月14日週
日経平均	¥21,117.22	¥20,601.19	¥20,884.71	¥21,116.89
裁定買い残	0.84	0.75	0.89	0.54
先週比	0.01	-0.09	0.14	-0.35

単位: 兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は堅調相場が期待できそうです。今週(6/24~6/28)の相場を占う『RU-RD 指標』は6月14日週が+10.3%と2週連続プラス圏をキープしたことで堅調相場が期待できそうです。更に、来週(7/1~7/5)の相場を占う6月21日週が+55.6%と3週連続プラス圏キープ、かつ1月7日週以来となる上限ゾーンを越えたことで堅調な相場が今来週は期待できるかたちです。前回上限ゾーンを越えた1月7日週は、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が昨年12月10日週~31日週まで4週連続下限ゾーンに陥った後の次の週で、その後、日経平均は4月まで上昇基調を継続しています。今回も5月10日週-35.7%→5月17日週-61.4%→5月24日週-50.0%→5月31日週-48.6%→6月7日週-52.9%→6月14日週-48.6%と5週連続で下限ゾーンに陥った後の『RU-RD 指標』の上限ゾーン突破とよく似たかたちになっており、前回同様、本格上昇のスタートを期待したいところです。先週、「日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が下落ゾーンを脱し、プラス転換するまでは相場の本格上昇は遠のいたかたちです。」と指摘しましたが、6月21日週-4.3%と下限ゾーンを6週間振りに一気に脱出し、本格上昇の第一歩が始まったこととなります。また日経平均のT2レーティングも、年初来高値となった4月26日週以来となる「買いレーティング」に買い転換しており、底値脱出の条件が揃い始めてます。

今週は、経済指標では、国内は、27日に5月商業動態統計、28日に5月失業率・有効求人倍率、5月鉱工業生産、海外では、24日に米5月シカゴ連銀全米活動指数、25日に米4月FHFA住宅価格指数、27日に米1-3月期GDP確報値、などの発表が予定されています。6月27日発表の米1-3月期国内総生産(GDP)確報値は3%台の成長が予想され、仮にGDP確報値が市場予想と一致しても米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げ方針に影響はなさそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内では、6月19-20日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」、G20大阪サミット(29日まで)、26日に米民主党、大統領選候補者の最初のテレビ討論会(27日まで)があります。6月28-29日に大阪で開催される20カ国G20サミットでは、やはりトランプ大統領と習国家主席との直接交渉で、両国の貿易面での対立が収束するか注目集まりますが、結論は先送りされるのが濃厚です。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



6月14日週	6月21日週	6月28日週	7月5日週
¥21,116.89	¥21,258.64		
-2.60%	6.30%	10.30%	55.60%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 21711 円～22145 円 (+2%かい離)

下値メモ 21221 円～20796 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 27304 ドル～27850 ドル (+2%かい離)

下値メモ 26418 ドル～25889 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 108.38 円～109.46 円 (+1%かい離)

下値メモ 107.65 円～106.57 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1375～1.1488 (+1%かい離)

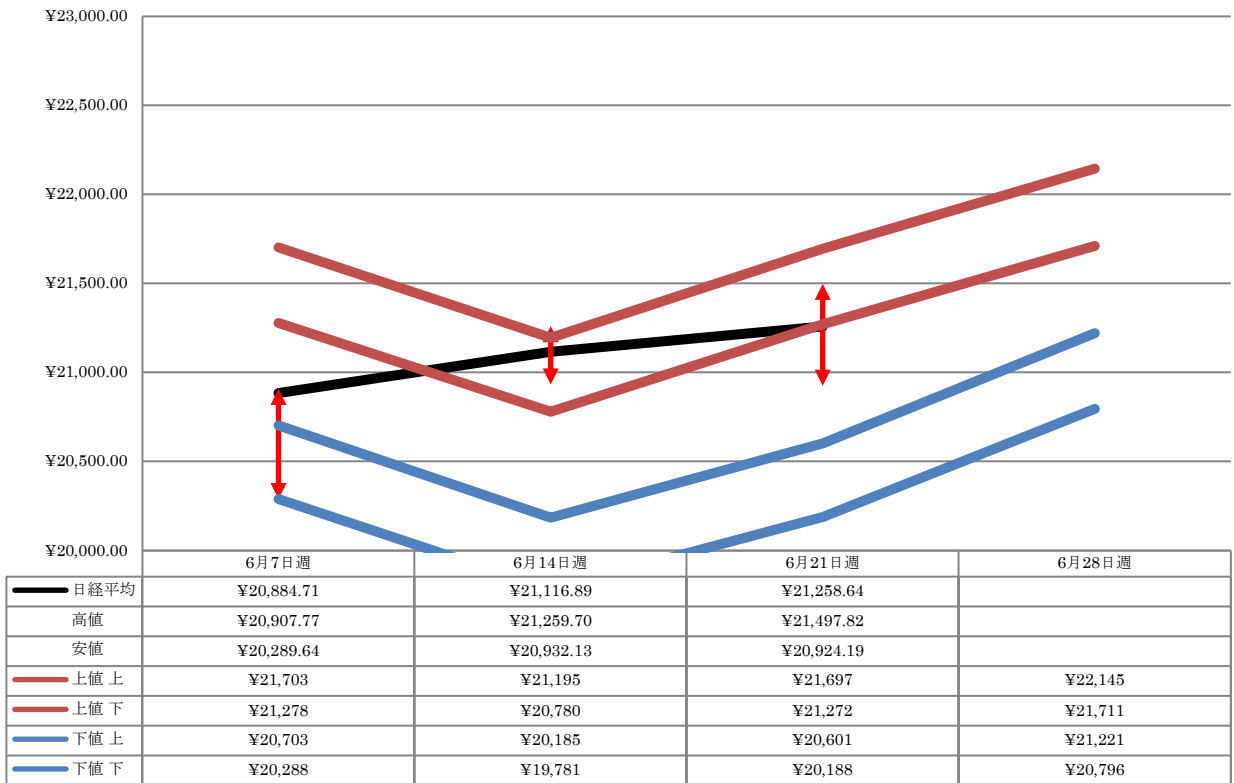
下値メモ 1.1204～1.1091 (-1%かい離)

<ユーロ円>

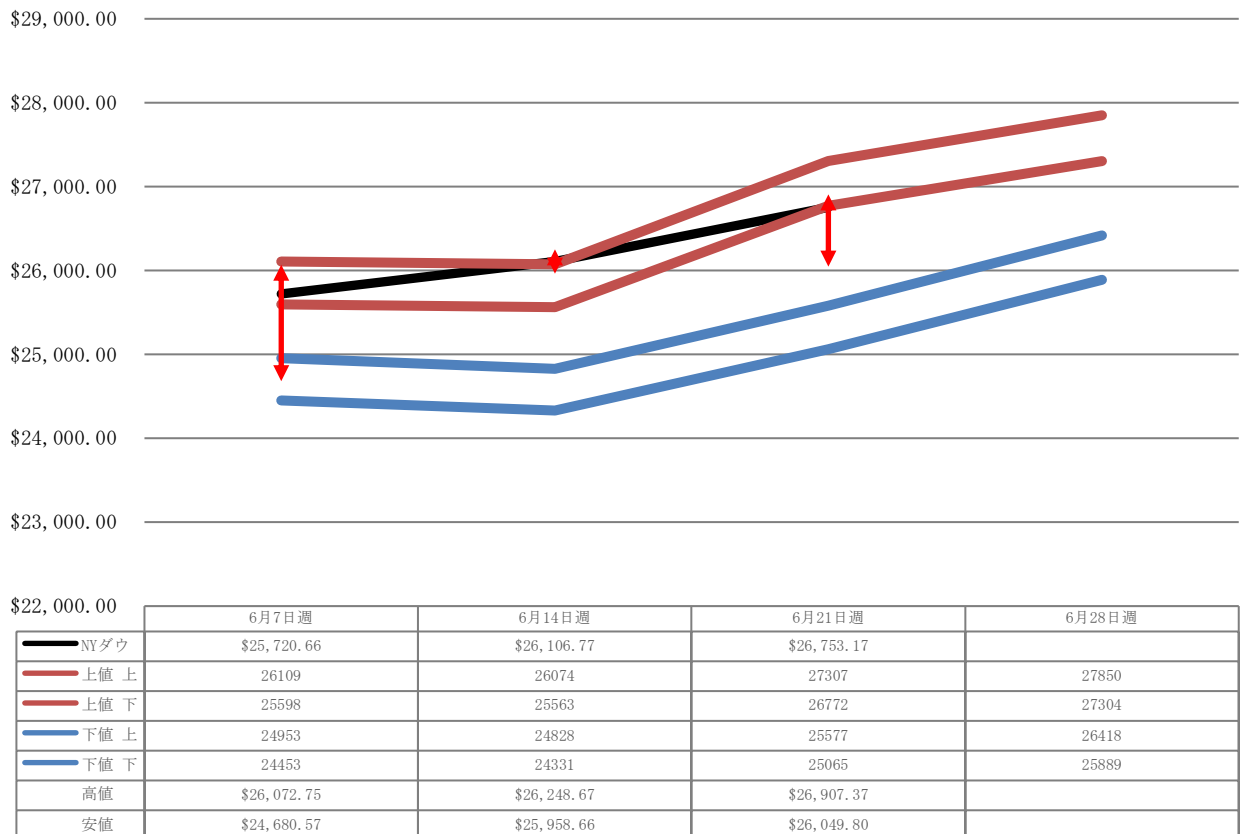
上値メモ 122.74 円～123.96 円 (+1%かい離)

下値メモ 120.96 円～119.75 円 (-1%かい離)

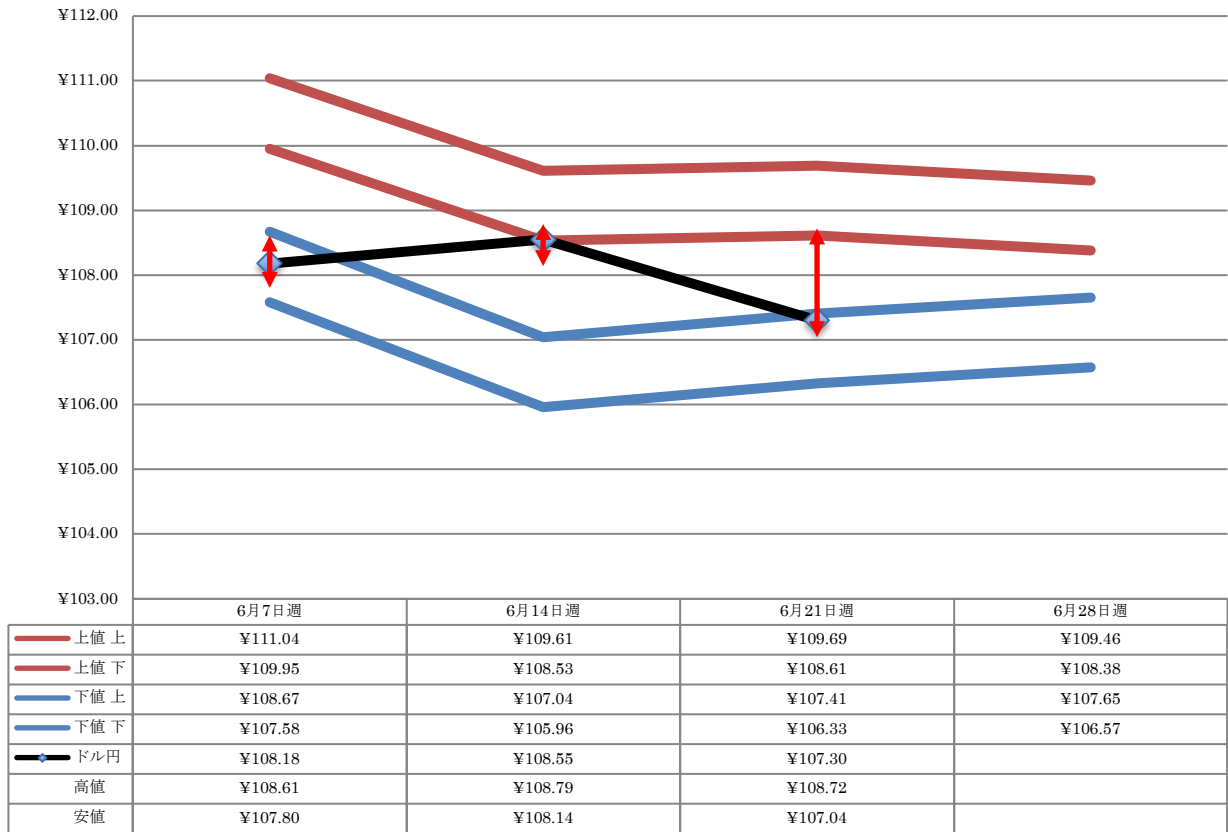
日経平均



NYダウ



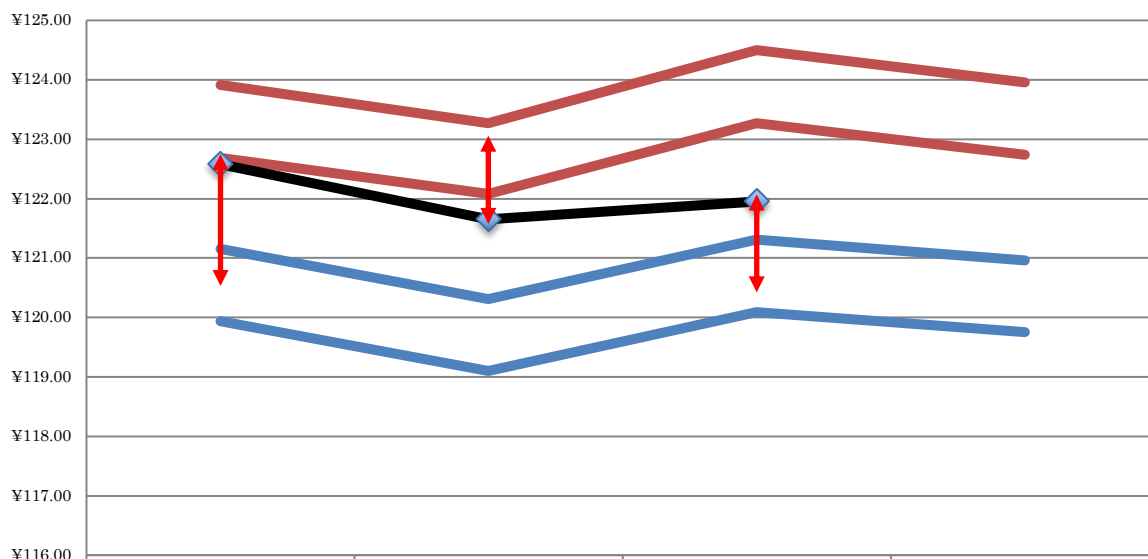
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

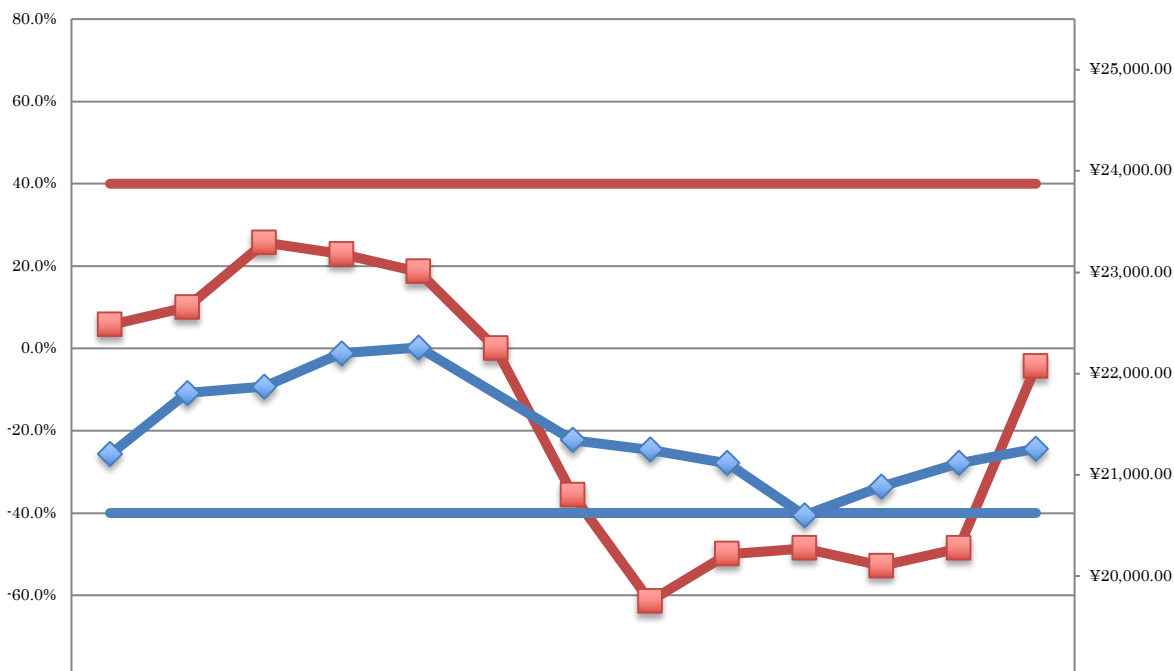


	6月7日週	6月14日週	6月21日週	6月28日週
上値上	¥123.91	¥123.27	¥124.50	¥123.96
上値下	¥122.69	¥122.08	¥123.27	¥122.74
下値上	¥121.16	¥120.31	¥121.31	¥120.96
下値下	¥119.94	¥119.10	¥120.09	¥119.75
ドルユーロ	¥122.58	¥121.65	¥121.96	
高値	¥122.75	¥123.06	¥122.08	
安値	¥120.53	¥121.58	¥120.42	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。直近まで 15 週連続プラス圏をキープしていましたが、16 週目で途切れ、直近 5 月 17 日週-61.4%→5 月 24 日週-50.0%→5 月 31 日週-48.6%→6 月 7 日週-52.9%→6 月 14 日週-48.6%と 5 週連続で下限ゾーンに陥っていました。5 週連続下限ゾーンは 2016 年 2 月 8 日週～4 月 11 日週の 10 週連続下限ゾーン以来。従って、「チャイナ・ショック」時の底値形成時期と現在は同じ衝撃度ということであり、先週、「同指標が下落ゾーンを脱し、プラス転換するまでは相場の本格上昇は遠のいたかたちです。」と指摘しましたが、6 月 21 日週-4.3%と 6 週間振りに下限ゾーンを脱し、本格上昇の第一歩を切ったかたちです。

日経平均とT2レーティング比率



銘柄比率	5.7%	10.0%	25.7%	22.9%	18.6%	0%	-35.7%	-61.4%	-50.0%	-48.6%	-52.9%	-48.6%	-4.3%
上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
日経平均	¥21,205.8	¥21,807.5	¥21,870.5	¥22,200.5	¥22,258.7		¥21,344.9	¥21,250.0	¥21,117.2	¥20,601.1	¥20,884.7	¥21,116.8	¥21,258.6

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。